

# 農業技術センター普及指導部作物関係情報 (その5)

## タイトル：水稲の生育状況（8月5日現在）について

発信日：平成23年 8月10日

### 内容

- ・台風6号の通過以降、7月5～6半旬は、気温が平年より低く推移している。降水量は変動が大きい傾向で推移しているが、平年より少なくなっている。日照時間は、平年より多くなっていたが、7月6半旬～8月1半旬は、平年より少なくなっている。
- ・出穂期は、気温の状況と幼穂長から、早生品種「キヌヒカリ」、中生品種「さとじまん」とも平年並みとなる予測である。
- ・「キヌヒカリ」は、草丈は平年並み、茎数は平年並～やや多い、葉色は平年並みの傾向である。「さとじまん」は、草丈は平年並～やや低く、茎数は平年並～やや多い、葉色は平年並みの傾向である。
- ・イネツトムシおよび縞葉枯病の発生が散見されている。
- ・8月5日気象庁発表の1ヶ月予報は、平年に比べて晴れの日が多く、平均気温は平年より高く、降水量・日照時間は平年並みの予想になっている。

### 留意点

今後の水稲の技術指導において、次の点に留意する。

- ①早生品種「キヌヒカリ」については、今後の天候が高温傾向の場合、適期に適量追肥が行われていれば、平年並みの収量が予測される。また、追肥を行わなかった場合は、玄米の太りが悪く、細粒が増えるものと予測される。

中生品種「さとじまん」についても「キヌヒカリ」と同様な傾向にあり、引き続き適期・適量の穂肥を行うことが大切である。6月10日以降の田植えで追肥していない場合は、早急に追肥を行う。ただし、追肥適期より遅く施用すると食味が落ちる可能性があるので注意する。

◆「さとじまん」は、出穂期の10日前、窒素成分2～3kgを施用する。

\*「さとじまん」は、玄米が大きく穂重型品種のため、穂肥を必ず行う。

\*農業技術センター（平塚市）での概ねの目安

作期	品種名	出穂期	穂肥時期	湛水状態期間（水を切つてはいけない期間）
5月下旬植	キヌヒカリ	8月6日		7月22日～8月16日
	さとじまん	8月15日 (予測)		7月31日～8月25日
6月上旬植	キヌヒカリ	8月11日 (予測)		7月27日～8月21日
	さとじまん	8月18日 (予測)		8月3日～8月28日
6月中旬植	キヌヒカリ	8月16日 (予測)		8月1日～8月26日
	さとじまん	8月24日 (予測)	8月9日	8月8日～9月3日

(注) 追肥により葉色が濃くなり、イネツトムシの発生時期と重なると被害が増幅されるため、常発地域は注意する。

②最も水管理が大切な時期。

本年は高温の傾向にあり、乳熟期初期高温の影響による「白未熟米（心白米・乳白米）」の発生に注意が必要である。特に、出穂後10日間くらいは高温の影響が大きいので、掛け流し灌水等を行って水温の上昇を防ぐ。また、この時期に水が切れると、登熟に影響が出るので、水を切らさないようにする。

③今後高温により、紋枯病が発生しやすくなり、穂ばらみ期を過ぎると、病斑が上にあがって（止め葉を含む上位葉に感染する）、倒伏のみならず登熟を阻害することになるので、必要に応じて穂ばらみ期に薬剤により防除する。

\* 稲の穂が出る15日以上前に畦畔等の除草をしておく。出穂15日前以降の除草は、害虫を本田に呼び込むことになり、カメムシ等の被害を助長するので注意する。

また、病虫害防除部のテレホンサービス（0463 - 58 - 6612）やホームページを活用する。

※薬剤の使用に際しては、ラベルの表示を確認してください。

参考情報  
平成23年気象庁横浜气象台気  
象並びに野菜作物研究部・現地  
水稻生育診断調査結果

連絡先  
農業技術センター普及指導部 作物加工課  
平塚市上吉沢1617  
電話番号：0463 - 58 - 0333（内）381 ~ 384  
FAX番号：0463 - 58 - 4254  
Eメール：noken.fukyu@pref.kanagawa.jp